

関係部署へ
回覧下さい

輸送包装研究例会

～ 「船舶 IoT 時代における日本郵船グループでの
IoT インフラ構築の取組みと、実務での活用事例の紹介」と
「包装に影響を及ぼすアジア物流インフラの現状と課題」～

日時	平成30年7月18日(水) 13:15～16:30
会場	愛知県産業労働センター(ウインクあいち) 11階1103会議室 名古屋市中村区名駅4-4-38
参加費	会員は無料 / 一般は5,400円(税込み)
お願い	会場内では録音・撮影禁止とさせていただきます。

プログラム

コーディネーター

株式会社デンソーロジテム 常務取締役 近藤 裕之 氏
中津川包装工業株式会社 販売推進部長 (包装管理士) 大山 孝一 氏

13:15～14:45

「船舶 IoT 時代における日本郵船グループでの

IoT インフラ構築の取組みと、実務での活用事例の紹介」

株式会社MTI | 船舶技術グループソリューションチーム チーム長 前田 佳彦 氏

日本郵船及びその研究開発子会社である MTI では、2008 年から搭載を進めている船舶データ収集基盤 SIMS (Ship Information Management System) によって、運航中船舶から航海機器、機関部機器等の詳細な運航データの自動収集を進めております。海洋気象や機器情報をはじめとするデータと組み合わせるビッグデータとして活用することで燃節運航/安全運航をはじめとした、効率化と新たな価値の創出に取り組んでいます。本講演では、船舶運航/物流分野での事例を中心に、日本郵船での IoT インフラ構築とデータ活用事例について紹介いたします。

14:45～15:00

<休憩>

15:00～16:30

「包装に影響を及ぼすアジア物流インフラの現状と課題」

日本通運株式会社 グローバルフォワーディング企画部 部長 犬井 健人 氏

近年の世界経済では、アジアに生産拠点を持つ日系企業が地域経済連携の強化や地産地消を加速したことにより、この地域の物流量が非常に多くなってきました。今秋には第2タイ・マンマー友好橋の開通など、接続道路の建設も進行しており、こうした動きは今後もさらに加速することが見込まれています。しかしながら、新興国特有の煩雑な通関手続きでの遅延や貨物スペース不足や荷物の滞留による包装材の劣化、未整備な道路と慢性的な渋滞からくる振動・衝撃など、インフラや環境要因による包装に影響を及ぼす課題が山積しています。それらの現状並びに中国の「一帯一路」政策等、アジア物流インフラの最新の動向や今後の展望についてお話しいたします。